

2020年 3月4日

滋賀県知事 三日月 大造様
滋賀県教育長 福永 忠克様

日本共産党県議会議員団
団長 節木 三千代

県立特別支援学校の一律休校を見直し、実情に応じた柔軟な対応を求める緊急要望

2月28日、安倍首相から一律の臨時休校の要請を受け、滋賀県新型コロナウイルス感染症対策本部は、県立中学、高校、特別支援学校についても3月2日から春休みまで臨時休校を決め、市町立の小中学校についても、国の趣旨を踏まえて、適切に対応するよう求めた。

あまりにも唐突な要請に、市町では、休校時期を4日に延期したり、小学3年生まで学校で受け入れたり、給食をするなど、様々な対応が行われているが、県立学校では一律休校を堅持されたままである。

3月3日には、特別支援学校が休校になったことにより、家庭で対応しきれない状況がおこっていることや福祉サービスだけでは限界にきていることを切々と保護者のみなさんが訴えられた。また困っていてもなかなか相談できないご家庭もおられることも推測され、早急に対応が求められている。

よって以下の点を強く求める。

- 1 障害を持つ児童生徒が通う特別支援学校については、一律の休校を見直し、家庭や実情を踏まえて、柔軟な対応をすること。
- 2 ただちに1人1人の子どもたちの状況を県教育委員会の責任で日々把握すること。
- 3 文部科学省通知にあるように、保護者の希望があれば、学校での子どもたちの受け入れを認めること。